

## 4. 2尾張万歳（万歳かせぎ）

### 尾張万歳の起源

伝承としては、尾張国春日井郡矢田村（現在の名古屋市東区矢田町）にある長母寺を開いた無住国師が、鎌倉時代の正応年間（1288年～1292年）の寺の雑役をしていた村人に法華経をわかりやすく説き、節を付けて教えたのがその起こりとされ**法華経万歳**と呼ばれた。知多半島周辺の大高村（現・名古屋市緑区大高町）や藪村（現・東海市養父町）、寺本村（現・知多市八幡）が長母寺の寺領であったことから、知多地方に万歳が普及したといわれる。

### 変遷

江戸時代の尾張万歳は、伊勢・紀伊・遠江・木曾などを廻った。江戸時代の末期近くなると、舞台芸能としての性格を強くうちだした**御殿万歳**や、従来の正月の祝福芸ではなく、三味線や胡弓を取り入れたり歌舞伎などに演目の題材を求めた**三曲万歳**が生み出された。披露する季節を問わなくなった三曲万歳の中でも、なぞかけ門答やお笑いで進める**音曲万歳**は、明治時代に愛知郡笈瀬村（現・名古屋市中川区笈瀬町）の嵐伊六により**伊六万歳**（「うかれ節」「あぼだら経」など独自の芸風を創出し、中腰で演じることから中腰万歳とも言われる）へと発展し、後の漫才の基礎となった。

### 基本の五万歳

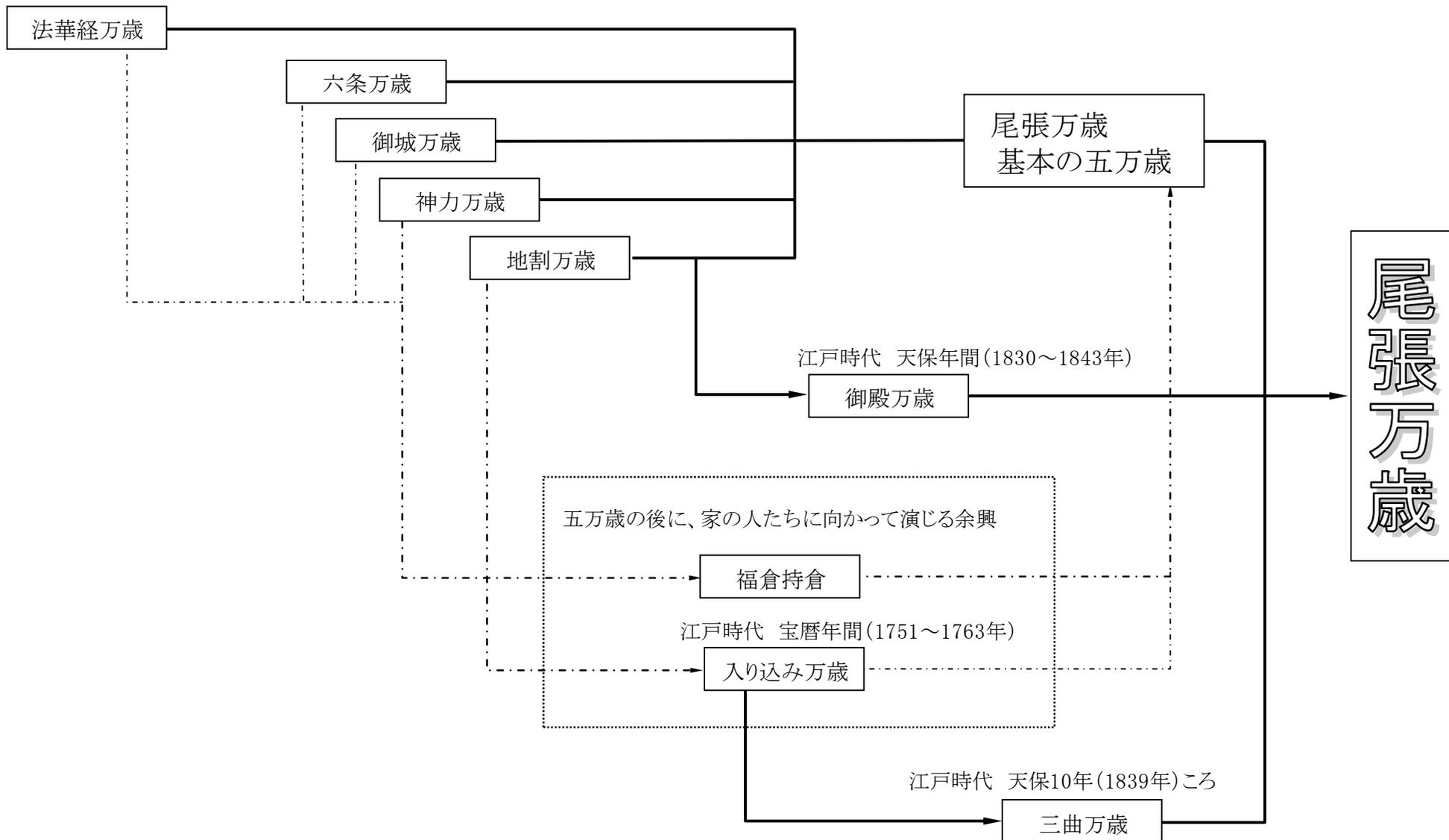
無住国師が作った万歳は、法華経をもとにしたことから法華経万歳とされています。その後、鎌倉時代には数々の新しい仏教（宗派）が誕生したことから、家々の宗派に合わせた四つの万歳が作られました。

これらの作者は不明ですが、無住国師の万歳と合せ、次の五つの万歳が尾張万歳の基本となりました。

法華経万歳	天台宗や日蓮宗の家で行う。
六条万歳	鎌倉時代の僧・親鸞の一代記や、本願寺の御堂のすばらしさを歌ったもの。本願寺のある通りが六条であったことから、このように呼ばれる。浄土真宗の家で行う。
御城万歳	江戸城や江戸の大名屋敷などの繁栄の様子やすばらしさを歌う。江戸やその他の屋敷で行う。
神力万歳	熱田神宮の造営を歌った万歳で、神道の家で行う。
地割万歳	五つのうちで、最も後代の作とみられる。屋敷を建てるときに祝う万歳で、演じる時と場所を選ばない。

# 尾張万歳の起源系譜

鎌倉時代 正応年間(1288~1292年)



これらの万歳の中から、家々の宗派に合ったものを選び、厳格な作法にのっ  
とって神棚や仏壇、床の間に向って、すなわち家人に背を向けて演じます。

これが、尾張万歳が他の地方の万歳と大きく異なるところです。

五万歳が尾張万歳の基本ですが、家の人からは背を向けた形で演じれる上に、内容が厳  
格で作法を重んじ面白さに欠けるという面があった。

そのため、五万歳を謡った後に雰囲気のを和らげるために、家の人たちに向って  
演じる面白さを重視した万歳も作られ、余興として演じられた。

このふたつの万歳は、神仏に向う五万歳のひとつの後に、今度は家人たちに、向って雰  
囲気を和らげるために行われるものです。そのため、座敷まで上がる檀那場万歳で主に行  
われました。

<p><b>福倉持倉</b> (ふくらもくら)</p>	<p>「なかなかなか・・・」と歌い出すところから、なかなか万歳 とも呼ばれる。地割万歳以外の万歳を謡った後に演じられまし た。</p>
<p><b>入り込み万歳</b></p>	<p>江戸時代中期の宝暦年間(1751年～1763年)に考え出 された、各地の特産物の名前を入れて祝う万歳で地割万歳に続 いて歌われる。 お茶やお酒などの特産物から「お茶ばやし」「お酒ばやし」など と呼ばれました。</p>



御殿万歳—御馬ばやし

## 新しい芸域開拓

<b>御殿万歳</b>	<p>天保年間（1830年～1843年）には、地割万歳を基に「御殿万歳」が考え出されました。これは厳粛な中にも、めでたさと面白さを盛り込んだ</p> <p>太夫ひとりに才蔵が4人から6人の舞台向けの万歳で、新春に鶴と亀が来訪し、家を建てる柱一本ごとに各地の神々を呼び込んで、瓦を伏せ、七福神が現れて新築を祝う、というものです。</p> <p>こうした新しい万歳は、宗教的信仰から生まれた尾張万歳の厳格さを和らげ笑いを強調した祝福芸、華やかな舞台芸として広く親しまれるようになりました。</p>
<b>三曲万歳</b>	<p>天保10年（1839年）ごろ、歌舞伎の流行とともに「三曲万歳」が演じられるようになりました。</p> <p>鼓・三味線・胡弓の三楽器を用いることからこうよばれています。また、なぞかけ問答やお笑いで進める音曲万歳もあった。</p> <p>三曲万歳によって、尾張万歳はその名を全国に広め、大正時代には万歳劇団も結成されるなど全盛期を迎え、万歳は農閑期の出稼ぎ芸としてだけでなく、興行化した職業としても成り立つようになりました。</p>



三曲万歳「千両轎り」